

9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ました山口良広です。どうぞよろしく申し上げます。今回、私は来月行われる参議院議員選挙佐賀選挙区選挙で最大の争点となるであろう長崎新幹線整備の是非が大きくクローズアップされるのではないかと考えています。

私は、なぜ長崎新幹線は必要かの議論でなく、武雄はがばいばあちゃんで見えます。それを本物にして、さらに、仮に長崎新幹線の整備が決定したとしても、10年後、ひょっとしたらそれ以上後かもわからないのです。それを待っていては、死ぬまで元気と言っても長い話だと思うのです。それより私は元気な武雄、活気のある武雄を今議論し、広く市民ニーズを基本に元気な武雄を建設し、いつ長崎新幹線がオープンしても「武雄は違うぞ」と言われるようなまちづくりを武雄市街地はもとより、周辺部を巻き込んでのいろんな角度からの議論をしたいと思います。

武雄市街地を南北に分断するJR佐世保線の高架事業の完成を間近に迎えた今、まず市長にお尋ねします。武雄の観光開発をどう進めていこうと思われるのか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

観光はソフトとハードであります。ハードの部分については、先ほど議員から御指摘があったように、計画にのっとって粛々とやっていく。ソフトの部分については見過ごされがちですけれども、観光客は住民の皆さんからあいさつを受けたとか、あるいはこういう元気なところで来てよかったと、そういったことが今観光に非常に求められているというふうに思います。したがって、私たち、そして議員の皆さん、そして広く市民の皆さんたちがもてなし力をきちんと持てるかどうか、これが今後の武雄の観光を左右する1つのキーワードだというふうに思っております。

今、幸いにして全国市長会においても武雄が非常に話題になっております。今注目が集まっております。ここが勝負だと思えます。そうやって来ていただいた皆さんたちが本当に武雄はよかったと思っていただくようにしなきゃいけない。そういう意味では時間はないというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

次に、5月の連休前にオープンした楼門朝市についてです。

私は農業者の一人として、朝市が楼門前に定着し、武雄の農産物の発信基地としての機能を持つようになり、インターネット上に載り武雄ブランドとなればなと思うものです。それ

ともう1つ、元気なおじさん、おばさんの生きがい農業の手助けができればなと思っています。その点も含めて、市長はどんな考えと想いでこの朝市を思い立たれたのか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今の朝市の状況は、このパネルのような状況になっております。（パネルを示す）始まったときは十七、八人だったんですけれども、今数百人の規模で地元の皆さん、そして、観光客の皆さんにお越しいただいております。

私の朝市を始めた意味というのは、この朝市を商業、農業、観光の結節点にしたいというふうに考えております。これによって朝市で多くの方がお見えになっている。そして、1つお願いがあるのは、市民の皆さんで、例えば、引き出物とか、あるいは眠っているものを世田谷のぼろ市ではないですけれども、出していただきたいと。それによって、もったいない市、リサイクル、循環型社会にもつながるというふうに考えております。そういう意味で楼門朝市が「オール武雄」の市となるように、私自身もまた皆さんたちとともに頑張っていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、朝市をパネルとして見せてもらったわけですけど、いろんな業種のもが出てくるんじゃないかと思っています。どんな業種がどんな地域から来ておられるか、それが大事じゃないかと思っています。そして、幅広くできるような発想というものを考えたいものと思っています。

そんな中で、私は将来的には朝市が今のテントの中だけじゃなく、温泉通り、商店街の中に延びるような形でできればなと思っているわけです。今のところ、地元の商店街の皆様の参加があればもっと元気になるんじゃないかなと思うわけです。それをするためには、どうしても商店街の中に入っていく、それが商店街の軒先や駐車場、空き地、いろんな形の中でできればおもしろい朝市になるんじゃないかなと思っているわけです。ぜひそういうふうな朝市というものになればなと思っていますので、どうぞよろしく、市民の皆さんとともに頑張りたいと思います。

次に、朝市を含めて駐車場の問題です。

今朝市があつているところは、普通は観光バスや観光客の皆さんの乗用車で埋まっていたように思うわけです。この朝市のある日は、車はどういうふうに対処されて、ああいうふうなオープンスペースになっているのかなと思うわけですけど、その点お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

朝市につきましては、先週の6月3日現在で31店の方が登録をされております。

それから、お尋ねの駐車場の件でございますが、出店者については、基本的に武雄温泉にお願いしまして桜山の駐車場に駐車をしているということ、それからお客さんについては、桜山の駐車場と、それから周辺の旅館、ホテルがございますが、そこがあいているところに理解をいただきまして、駐車をしているということでございます。

それから、市街地の中にさぎの森の広場がございますが、将来的には、近々のうちですが、ここについてもお客さんの駐車場として活用を予定しております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひどうしても朝市の場合に、朝市も同様ですけど、市街地になれば駐車場というものが大事じゃないかと思っています。そんな中で、さぎの森の広場を駐車場に考えておられるということは、議会のほうでも議論がされたわけです。大事な問題だと思いますので、市民のニーズと、また周辺部の方の御協力でぜひできるように頑張ってもらいたいと思います。

そんな中で、今駐車場として市内ではもっとこれより以上に大きくする必要はないんじゃないかなと思うわけです。例えば、もっと競輪場とか、いろんなところとシャトルバスのような形で持っていくような、将来的な夢ですけど、そういうふうな形で駐車場確保というものをぜひやって、朝市というものと温泉通り商店街というものがマッチングして、本物の朝市の形になればなということに思っております。

次に、活性化対策には人づくりだと思っています。武雄には民間団体や個人を中心にしたノスタルジー武雄として実行委員会があるわけです。以前、四、五年前からノスタルジー武雄ということで、秋にはいろんな温泉を中心にしたイベント等が計画されております。ことしの行事、また今後、この実行委員会をどうまちづくりに取り組んでいくか。今から人とのつながりというものが大事じゃないかと思っております。その点、どういうふうに持っていけるのか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

特に、ことしにおいては11月に「T A I Z O + T A K E O展」を行いますので、ノスタル

ジー武雄「時巡り温泉祭」、については、これにのっとった形でやっていただければありがたいというふうに考えております。もとより、これは1つの提案ですので、実行委員会の中等々で決められると思いますけれども、市長としてはそういうふうに考えております。要は、ばらばらやるよりは人が来ているときに集中的に効果的な手を打つ。しかも、今回は一ノ瀬泰造展と武雄展をやりますので、それにあわせてしたほうが効果は上がるのではないかとこのように考えております。ある意味、ことしは温泉めぐりよりはフォトめぐりになればいいなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

この実行委員会には、今、武雄のまちでは元気な、将来を動かすような青年たちがたくさんいるメンバーだと思っています。彼らと一緒にまちづくりというものを、行政だけでなく、民間等の力をかりてこそできるんじゃないかなと思っています。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

そんな中で、以前よりいで湯と陶芸のふるさととして武雄は売り出してきたわけです。その点、この実行委員会の中でも器としての焼き物を温泉の旅館街や飲食店街で使おうじゃないかというふうなことで検討されたりしております。また、足湯などいろんな形でもしているわけですので、今後、今までやっている行事等にもつながるような形でお願ひしたいと思います。

それと同時に、焼き物といいますと、窯元等の要望で展示会場というものがないというふうな話をよく聞くわけです。今からいろんな形で焼き物をオープンに観光客の皆様に展示し、また、それを広く使われるような形でできないかなということをおもっているわけです。その点、今から空き店舗等や、また文化会館のロビーあたりの中でもされないかなということをおもうわけです。このいで湯と陶芸のふるさとということで、どういうふうに今後進めていくか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

特に、陶芸について私からお答えしたいと思います。

展示場について、結構やっぱり言われます。そういう意味で私は1つの現実的な案としてエポカル武雄をそういった場にしたいというふうに考えております。個展をやっていただいてもいいでしょうし、グループ展をやってもいいでしょうし、そして、そこで物品販売をしていただくのもいいでしょうし、そういった意味で私はエポカル武雄を中心としてそういった場を展開していきたいというふうに考えております。

その上で5月の連休中、本山酒造跡のがばいカフェが非常に好評でありました。なぜ好評だったかということ、地元の古唐津の器でコーヒー、あるいはレモングラスティーを飲んでいただくといったことが非常に好評だったというふうに分析しておりますので、近々また、がばいカフェも名前は別としてオープンしますので、そういった議員が御指摘のように、あいているところにはきちんと展示をして、また置いていきたいというふうに考えております。

参考とするのは金沢21世紀美術館であります。あそこはタクシーの運転手さんたちが必ず薦められる場所というふうに聞いております。私も機会があれば視察に行きたいんですけども、そういった意味でエポカル武雄に行けば何か展示してあるぞと。特にいで湯と陶芸のまちですので、陶芸を中心にしているんだというふうに観光客から、あるいは市民の皆さんから愛されるような展開を考えていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういうふうな形の中で焼き物というものがせっかくある窯元さんの力をかりて、美術品としてではなく、また、使われる焼き物として利用されれば、もっとやっぱり武雄じゃなからんばいかんねというふうな流れになるかなというふうなことを思います。

それにもう1つ、まちづくりとして活躍しているわかもんプロジェクトの中に武雄三樹物語というものがあります。私も時々、三樹物語ということで参加するわけです。朝の9時ごろからお昼の2時ごろまで武雄にある3本の大楠を回って、その後、食事をし、そして、わいわい話をしながら、いろんな会話を楽しむ企画です。武雄に住んでいる人よりも遠くに住んでいる人がいろんな形での公募にのって参加します。その中で武雄のよさ、自然のよさというものがあるわけです。私はこんなものがあるのをぜひ使ってもらって、温泉とさるく、すなわちウオーキングというものがドッキングできればなと思っているわけです。

幸いにも武雄には物語として黒髪を中心にした大蛇物語など、いろんな物語があるわけです。それらを回るようなウオーキングのコースというものをつくれれば、余りハード面で金をかけることなく観光につながるんじゃないかなということも考えるわけです。その点を含めて、三樹物語の活動及びウオーキングコースの点について、どういうふうに思われるかをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

三樹参り、私も何回か出ておりますけれども、毎回25名から30名、遠いところだと埼玉、あるいは京都からお見えになって、非常に好評で回数をふやしてほしいというありがたい要望を受けております。これに意を強くして1つ今考えておるのは、「佐賀のがばいばあち

ちゃん」口ケにかかわる口ケ地、あるいは施設を網羅した「がばいばあちゃん口ケ地88カ所めぐり」、これは仮称でありますけれども、この企画検討を今進めようと思っております。これについては、北方、あるいは山内すべて入りますので、そういう物語性のあるさるく、あるいはウオーキングロードというのをつくっていきたいと。ただ漠然と何とか回りとか、何とかめぐりというても、物語のなかところには人は来んですね。そういう意味でこういう88カ所めぐりは、できれば女性の方はもんぺをはいてですね、なぜ四国のお遍路さんは人気があるかと分析したところ、やっぱりあれは白装束で行きんさっわけですね。あれにつられて何というんですかね、非常にそこに活気があったりとか、あるいはそこに何か物語を見出すと。そういう意味で衣服も大事だと思いますので、そういった面で衣服も含めてこの88カ所めぐりを提案していきたい。旅行代理店等にも提案をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私がぜひここで言いたかったのは、今までどうかしたら長崎新幹線ができないとどうにもこうにもできないよというふうな答弁というものを時々聞いたわけです。それじゃなく、もっと積極的に市民を巻き込んで、こういうふうな形でまちづくりを武雄はやっているんだよというふうな形に持って行って、市民とともに地域振興をやってほしいということと言ったわけです。

次に移ります。

市長は、具約の中で夢のある武雄、関西大学や多くの企業誘致の経験、そして、幅広いネットワークを生かし、全国から企業、学校等の誘致を図るとともに、起業をされる方々を税制等の優遇により積極的に支援し、働く場の確保、創出、福祉、子育てに配分する税収増に努めますと言われております。市長に就任されて約1年しかたちません。すぐに答えを出せとは言いませんけど、市民は地元で働く場を確保してくれ、そして、元気な若者がたくさんいるまち武雄を望んでいると思うのです。その点、市長はどんな戦略を持ってこの具約の達成に進んでおられるか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、私たち営業部戦略課、そして、私のところ、副市長のところにもさまざまなルートを通じて企業だったり、工場だったり、学校だったり、話が実は来ております。しかし、最大の問題点は、場所、土地がやっぱり見当たらないということが1つ問題点としてあります。これについては、経済産業省を中心とした企業立地促進法が今後6月でしょうか、施行されますので、それにあわせて全国で第1号の認定を受けるべく、その地域の制度検討に今入っ

ております。その上で1期4年、4年たったときにこれだけふえたということの評価していただきたいというふうに考えております。もとより、先ほど御指摘があったように、まだな  
って1年ですので、あと3年間ちょっと温かく見守っていただければいい結果が出せるとい  
うふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

大体、この後、そこは今市長が言われましたようにしっかりやってもらいたかと同時に、  
用地とか、いろんなものが今の武雄市にあるのかなというものをお聞きしたかったわけです。  
それがちょっと言われたわけですけど、さきの佐賀新聞の報道を見ますと、県内には26社が  
昨年度内に誘致されたというふうな報道がなされたわけです。その中で私の知る範囲内では  
武雄市には余り、ゼロに近いような形じゃなかったかなということをお聞きしたわけです。その  
中で今市長がくしくも言いましたように、そもそも武雄には県営、市町営も含めて公共の造  
成済みの土地はどれくらいあったのかと。それがなかったから今の時代に取り残されたのか  
なということをお聞きしたわけです。その点含めて、今現在、工場団地等用地としては旧市町別  
にどれくらいの県営、市町営の団地があるのか、お聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどの誘致につきまして、3月23日に大村市に本社がございます半導体関係の企業が若  
木の工業団地に立地することになりました。そういうことで、県営の工業団地については、  
あと1区画の半分、1ヘクタールが若木の工業団地にあります。そのほか、武雄、北方、山  
内含めて県営、町営の団地はございません。

ただ、民間の工場適地になり得る箇所については、武雄、北方、山内含めてうちのほうで  
把握しているのは三、四カ所程度あると。規模的にも1から2ヘクタール程度ございますが、  
そういう状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

さきの議会で工場団地適地調査委託料を議決し、武雄市としても今から合意できると思  
いますけど、その進捗状況はどうなっているか、お尋ねしたいと思います。規模、面積にして  
何カ所ぐらいか、また、分譲の時期はいつごろと考えられておるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどの工場の調査でございますが、昨年の10月ぐらいから調査を開始しまして、今現在来ておりますのが、これについては1次、それから2次調査をしまして、交通のアクセス、それから電気、水道関係のユーティリティー関係の条件、そこら辺を勘案しまして、最終的に5カ所に絞り込みをしております。規模については、規模ごとに2から3、それから5ヘクタール、それから10ヘクタール以上ということで現在5カ所を絞り込んでおりまして、今後は先ほど市長が言いましたように、国の企業立地促進法が6月施行されますので、これに準じて早急に申請をして、その認定を受けて、国、県とも連携をしながら団地の整備に努めたいということで、実施の時期については今からということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、日本の経済は活発に動いていると思います。そんな中で北部九州は自動車産業を中心に活発な誘致がなされているわけです。そんな中で今見ますと、公共としましては2分の1カ所で1ヘクタール程度、また、民間の用地を含めると四、五カ所があるというふうなことが言われました。ぜひその点の民間の皆様の御協力の中で誘致ができればなと思っております。そして、武雄に若者の定着の場ができるようお願いして、この市長具約、夢のある武雄の質問を終わりたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、午後1時10分まで暫時休憩をいたします。

休 憩 11時59分

再 開 13時12分

議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

では、午後の部に移りたいと思います。

農地・水・環境保全向上対策がことしより始まるわけですけど、どんな目的でこの事業が行われるのか。また、期間は5年と定められていますが、5年後にはどんな農村社会を目指すのかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの農地・水・環境保全向上対策事業ですが、これについては国のほうがことしから5年間の計画でございまして、目的はいろいろございますが、まずは最近の農業従事者の減少、あるいは日常の生活様式が変化をしております、農業を取り巻く環境が大きく変わっておりますということで、特に農地、水、それから地域の環境を良好に保全をして、質の向上をまず図っていくというのが1点目でございます。

それから、今回の事業については、地域の農業者だけじゃなくて地域の住民とか、あるいは自治会、関係団体と幅広く連携をして事業に取り組むというのがございます。

それから、これまでの環境保全に加えまして、そういうことで農村の自然とか、あるいは景観を地域ぐるみで守っていこうというのが今回の目的になっております。

それから、もう1点は、農業者の先進的な営農活動を総合的に支援をしていこうというのもございます。

以上でございます。

済みません、もう1点、5年後どういう農村を目指していくのかということでございますが、先ほど言いましたように、第一には地域の共同作業でございますので、そこら辺で地域の活性化、活力のある農村になればということで考えています。結果的に農地、あるいは水路、農道等の資源の保全が図られまして、最終的に食料の安定供給ということで、そういうことになっていけばというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

地域の力をかりて、農業環境の保全をして、食料の安定供給につながるというふうなことを今言われたわけですけど、では、このことしの武雄市の予算というものが農林予算はどれくらいあるか、そして、そのうちにこの事業で武雄市としての持ち出し分は幾らなのかをお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

ことしの19年度の当初予算の農林事業費が、これについては農業委員会の経費を除きまして約6億程度でございます。その中で、今回の農地・水・環境保全対策事業については、6月で補正をお願いしておりますが、武雄市の持ち出し分が負担金として25,151千円ということで、全体、農林業費に占める割合が4.19%ということになります。

それから、この事業は国、県の負担もございまして、これについては真っすぐ県のほうの

協議会に行くわけですが、全体の総事業費が約100,600千円ということで、この数字でいきますと、先ほど武雄市の6億に対しまして約16.8%というふうな数字になります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今の市のこの総事業費として年間に100,600千円のお金が農地・水・環境保全向上対策ということで出るわけです。それが、私はこの事業というものが6億の農林業予算の中で1億程度の中が、そうなった場合に、今まで本当を言えば国やら県、また市町村がやらなくてはならない事業というものを農業者のほうに押しつけたような形の中でこの事業が行われる可能性というものが一番不安に思うわけですけど、その点はどういうふうな形でこの事業と農林業の事業を、主に農業土木の農地保全とかの問題になると思いますけど、その点のすみ分けというものはどういうふうになっているかお尋ねしたいと思いますけど。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

今回の事業については、各地域において事業を実施していただくわけですが、これについては、どうしても取り組みができない地域とか、あるいは事業の内容によっては市のほうからも、例えば原材料の支給なり、あるいは市の単独の補助金、そういう制度はありますので、そこら辺をやっていきたいということで、基本的には先ほどのこの事業で対応してほしいということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

この事業を見ますと、今私たちもいろいろと地区で説明を受けたり、また地域の代表者の方は頑張っておられるんですけど、この場合、地区民でみんな考えて、みんなで働き、また地区民で写真を撮り、証拠を残しながら会計処理をしていくというふうな形になっているわけです。やぐらしかにゃといえ、もうそれでおしまい。これによって自分たちの地域をみんなによくなそうとするのか、この事業というものは大きなニンジンを食べるか食べないかというふうなことにもつながるんじゃないかと思って、これをどういうふうな運用して所期の目的を達成するかというのは大事なことじゃないかと思っていますけど、この事業には武雄市内でどれぐらいが参加し、また参加していない地域もあるのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

今回の事業の取り組みでございますが、現在県の協議会のほうに申請がされているのが、市内、武内、武雄、北方、山内含めまして74集落ございます。武雄市内の区域については107ございますので、あと幾らかはまだ申請がなっていないということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

107のうちに74ということは、107ということは農村集落と仮定していいわけですかね。都市部の集落も入っているわけですか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

行政区が107ありますので、そのうちの74地区が申請をしているということでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、農村集落は大半がこれにかたって事業が行われるということで解釈していいわけですね。 はい、わかりました。

私は、この点というものがせっかくの事業というものでそこに格差ができてはいけないなということを思ったわけです。そして、一緒に武雄のいい環境というものを行政の指導のもとにできればということを希望していましたので、その点がもしできないところがあった場合に、そのフォローをどうするのかなというものが不安でこの質問をしたわけですけど、取り越し苦労になったことと思います。

では、この中で、今この事業が、最初の中でいろんなところの環境保全にしていよいよということになっているわけですけど、例えば、ここにこの前の「がばいばあちゃん」のロケ地の風景とか、いろんなところで農村、農業の施設とは関係ないような環境というものが周辺部にたくさんあるわけですけど、そのあたりとのこの事業との兼ね合いというものはどういうふうになっているんでしょうかね。もっと、これが拡大解釈をされる中で、いろんなものが地域で環境保全ができればなと思っているわけですけど、その点をお聞きしたいと思いません。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

今回の事業につきましては、補助金の該当するものと、それから該当しない分がございまして、基本的には農地、それから水路、ため池、農道等のいわゆる農業用施設、そこが対象になる事業でございまして、例えば公民館の敷地とか、あるいは神社の境内、そこら辺については交付金の対象外となっております。しかしながら、先ほど言いましたように各地域で農業者以外の方も一緒になって地域ぐるみで活動をするということになりますので、できればそういう組織の中で、そういう事業にも取り組んでいただければというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、してもいいけど、この事業の対象にはならないというふうに解釈すればいいということですね。

そしたら、山間地になりますと、今イノシシあたりの対策というものが大きくなるわけですが、山林の手前のところでいろんなものをフェンス等でイノシシ対策とかやるわけですが、そのための草刈りというものもだめになるわけですか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

イノシシ関係については、当然農地の保全を図るものですから、それは対象になると思います。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

わかりました。

今、この武雄の場合はイノシシ対策というものも大きな問題になっているわけです。ぜひ、この点をうまく活用してできればなということを思っております。

今から農村は高齢化がどんどん進むわけです。そんな中で、この事業のように地域住民、いろんな人を巻き込んでの農村を大事にするという運動というものは大事だと思いますので、その点を考慮してやっていくような指導をお願いしたいと思います。

それと同時に、武雄には先祖様が大事に守った大楠のようによい環境がたくさんあります。あの「がばいばあちゃん」のロケの風景であり、武内の一本桜、朝日町で取り組んでおられる朝日川のクリーン作戦、東川登のコスモスロードなど、各町、各集落にいろんな環境保全というものが行われています。それらをぜひこれらの環境保全というものに対して、ぜひこれをどのように守りたたえるかというものが、今後たたえていくために、たたえていくよう

な施策というものができないかと思っているわけです。

その事業というものをやっている団体等を褒めたたえるとともに、それを広く世間に出すことにより、最初に、長崎新幹線の中で言いましたように、ぜひいろんないいところを市内、市外に広報できるような政策というものを考えてたいと思いますけど、その点、市長として考えを聞きたいですけど。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

武雄に帰ってきて思ったのは、何とか大賞というのなかですね。そいけんが、例えば、これに例えて申し上げますと、環境保全大賞ということを年に1回やって、それをケーブルテレビ、あるいは市報で広く広報してたたえるといったことを議員の御質問を受けながら考えておりました。

そういったことで、もう少しこれから詰めますけれども、年に1回か2回の環境保全大賞という形でやっていければいいなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、そういうものをつくって、一生懸命地域を守る力が励みになることを期待して、私の一般質問を終わりたいと思います。